

創立50周年記念 穎娃に桜を植樹

鹿児島市・肥後産業

貨物運送の肥後産業（鹿児島

市、肥後貴哉社長）は1日、創立50周年を記念して南九州市穎娃の社有林に桜を植樹した。写真。毎年200本ずつ植え、5年かけて千本桜の森をつくる。

同社によると、地球温暖化防止のため、2009年から指宿スカイライン穎娃インター近くの山林21万平方メートルを購入。こ

のうち5万7千平方メートルの雑木林を活用した。NPO法人・森と木の研究所（鹿児島市）と共同で、かごしまみどりの基金の助成を受け造成する。

取引先や社員ら45人がヤマザクラやソメイヨシノ、オオシマザクラを植えた。創業者の肥後忍会長（72）は「50年前、最初に運んだのは木材だった。運送業が排出する二酸化炭素を吸収し、人々に楽しんでもらえる桜の名所にしたい」と話した。

（兵頭昌岳）

